

この20年間のメキシコ銀行部門の新機軸 アステ 力銀行の事例

| | |
|------|---|
| 著者 | 久松 佳彰 |
| 著者別名 | Yoshiaki HISAMATSU |
| 雑誌名 | 国際地域学研究 |
| 巻 | 22 |
| ページ | 123-130 |
| 発行年 | 2019-03 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1060/00010509/ |

この20年間のメキシコ銀行部門の新機軸 —アステカ銀行の事例—

久松 佳彰

概要

本論文では、この20年間のメキシコ部門における新機軸として、2002年に創設されたアステカ銀行について報告する。本銀行はメキシコ第二位の支店網を持ち、ボトム・オブ・ピラミッド（BOP）層を融資のターゲット層としている。その収益のほとんどが融資からの利子収入であることから、本銀行のパフォーマンスの重要性はどのように貸付金利を定め、適切に回収するかということにある。新聞報道によれば2015年に不良債権についての懸念から支店削減を含む企業リストラをおこなったという。実際、事後の融資利子率を計算すると2015年までは50%を上回る利子率をつけていたが、2016年以降は利子率を50%以下に下げて、融資を拡大していることがわかった。次に、融資と支店網との関係を見るために、国家銀行証券委員会によって報告された各市別のアステカ銀行の融資金利を支店の存在と、その市内にアステカ銀行が唯一の支店を独占的に持っているかで統計的に調査すると、市内に支店が無いと金利が20%弱高いが、市内唯一の支店であってもあまり金利に影響がないことがわかった。BOP層に融資を拡大していくには支店網の拡大が示唆されるが、支店網の拡大による費用増とのトレードオフ関係に配慮していく必要がある。

1. はじめに

メキシコでは銀行部門の存在感が低い。預金銀行による民間融資（private credit by deposit money banks）をGDPで割った比率を見ると、2015年で22%とOECD諸国の中で非常に低いことがわかる¹。銀行部門が弱いことはメキシコでも広く共有されている。資源配分の歪みとそれをもたらす社会保障や税についてのインセンティブ・システムがメキシコの低い経済成長の原因であると指摘し、メキシコ国内でも話題になったLevy（2018）でも、次のように述べられている。

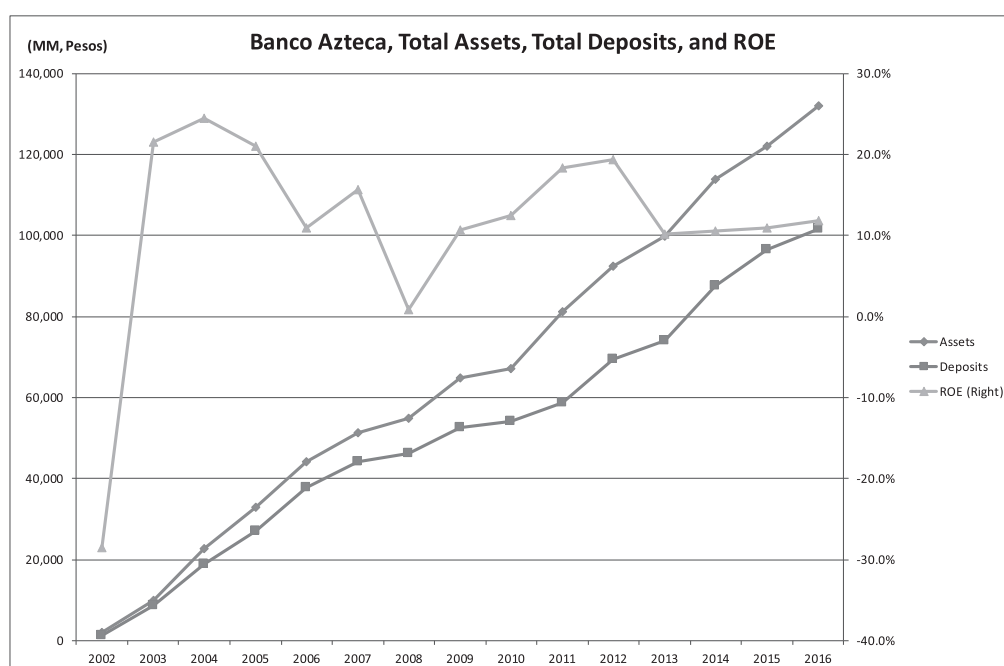
『規模に関わらず、ほとんどの企業は商業銀行から融資を得ておらず、自らのキャッシュフロー、供給者からの融資、銀行以外の金融仲介者、もしくは親類縁者からのファイナンスに頼

らなければならない。金融制約の原因は大きく二つある。第一には銀行部門の高い集中度である。第二の理由は契約の不完全な実行である。その原因は、資産登記、個人信用調査機関による融資情報の管理、担保になった資産の取り押さえと所有権移転に関する規則、以上の実行における欠陥である。(中略) 更に小さい企業は商業銀行から融資を得るのにより困難となっている。』(Levy, 2018, p.42)

この点からすると、この20年、もしくは1994年の銀行危機以降で最も顕著な変化の一つが家電小売会社であるエレクトラ・グループ (Grupo Elektra) によるアステカ銀行 (Banco Azteca) の2002年の創業であろう。現在までメキシコ・中米で7000点以上の顧客との接点 (国内最大) があると2017年アニュアル・レポートで述べている。その競争優位は、家電販売で培った中間層へのブランド力と中間層の返済能力を見極める力にある。実際、アステカ銀行の支店は家電を販売するエレクトラの支店に併設されていることが多い。アステカ銀行の顧客ターゲットはBOP (Bottom of the Pyramid) 層であり、この層への融資をおこなっている。Bruhn and Love (2014) はアステカ銀行の店舗拡大データを利用して、融資へのアクセス改善がどのようなインパクトをもたらしたかを調べている。そこでは、インフォーマル・ビジネスの拡大、所得の向上、失業者の減少、銀行がなかった地域での大きな変化、一人あたりGDPの成長、という五つの変化が見られたと指摘している。

アステカ銀行の現在の規模を見ても、メキシコ銀行部門の中でのその存在感は確認できる。2016年末において総資産、融資で国内11位、預金額で10位、資本で9位である。その成長もめざましい。総資産・預金は右肩上がりの成長を続け、2009年以降は10%を上回るROEを確保している。

エレクトラ・グループの2017年アニュアル・レポートでは、競合他社としてBancoppel, Banco



出所：SHCP-CNBV

図1 アステカ銀行の資産・預金の成長とROE

Ahorro Famsa, Banco Autofin, Banco Compartamos, Consubanco y BBVA Bancomer の名前が挙げられているが、BBVA Bancomer を除けば、総資産額はアステカ銀行が最も大きい。また、BBVA Bancomer とは後述するように貸し出しの金利水準が大きく異なり、ターゲットとする顧客層が異なると考えられる。BBVA Bancomer 以外の銀行は2007年頃に銀行免許を取得しており、2002年に先行者として創業したアステカ銀行に追いつけていないというのが現状であろう。支店数で見ても、メキシコ全体で一位のBBVA Bancomer の1839店舗に続く、1793店舗の支店網を持っており、アステカ銀行が意識する同業他社の中ではBanCoppelが最多の支店数であるが、その1089店に大きく差をつけている（表1）。

表1 メキシコの商業銀行の支店数

| 順位 | 銀行名 | 支店数（2017 年末） |
|----|--------------------------------------|--------------|
| 1 | BBVA Bancom er | 1,839 |
| 2 | Banco Azteca | 1,793 |
| 3 | Banam ex | 1,479 |
| 4 | Santander | 1,220 |
| 5 | Banorte | 1,148 |
| 6 | Ban Coppel | 1,089 |
| 7 | H SBC | 971 |
| 8 | Inbu rsa | 696 |
| 9 | Com ercial M ediano | 587 |
| 10 | Scotiabank | 551 |
| 11 | Banco Ahorro Fam sa | 424 |
| 12 | Banco del Bajío | 301 |
| 13 | Bancos Cam biarios | 278 |
| 14 | Com partam os | 275 |
| 15 | Banca de Inversión y Otros Servicios | 193 |
| 16 | Afirm e | 187 |
| 17 | CIBanco | 184 |
| 18 | Banregio | 150 |
| 19 | Com ercial Pequeño | 103 |
| 20 | InterCam Banco | 71 |
| | すべての銀行の総支店数 | 12,743 |

出所：CNBV

2. アステカ銀行の収益構造

アステカ銀行の収益構造を見ると、もっと顕著なのは金利収入の90%弱が融資による金利収入であるということである。このことが意味しているのは、金利をどのように決めるのかが収益にとって重要であるということである。このことと対応して、資産の内訳を見ても、52%が融資により占められている（表2）。

表2 アステカ銀行の資産・負債構成（2017年12月末）

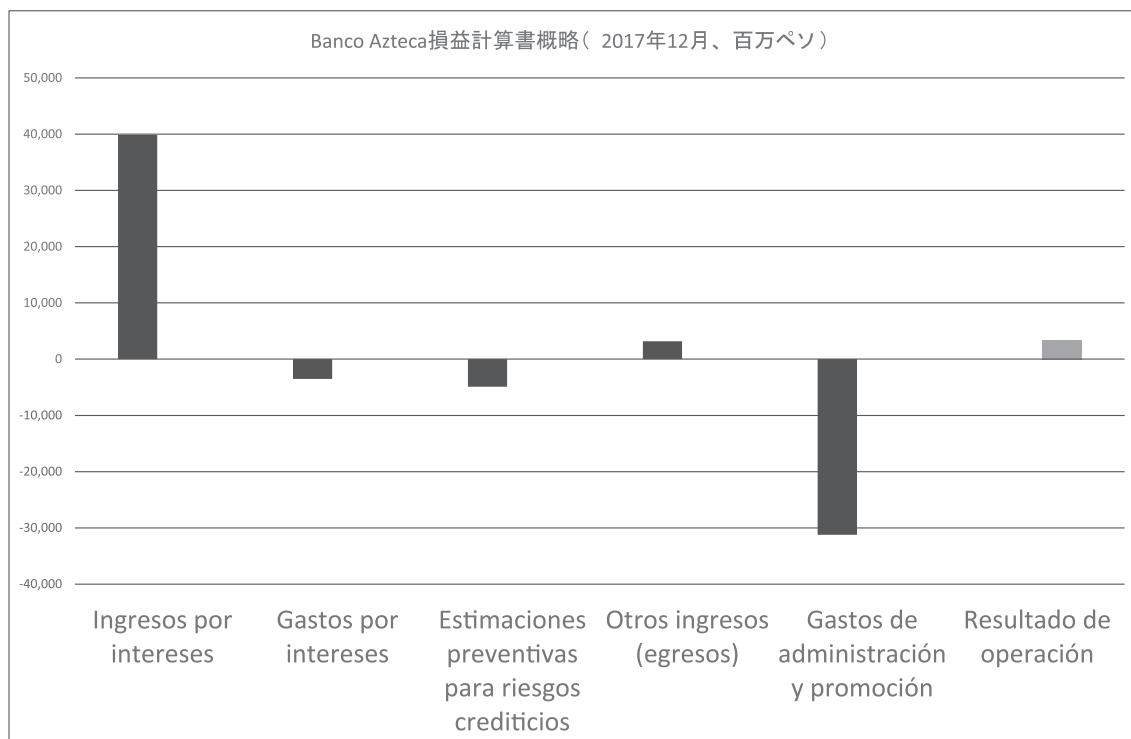
| 資産 | | 負債・資本 | |
|--------|-----|--------|-----|
| 現金 | 12% | 要求払い預金 | 68% |
| 証券投資 | 23% | 定期預金 | 8% |
| 融資 | 52% | その他の負債 | 12% |
| その他の資産 | 13% | 資本 | 12% |

出所：CNBV

さらに、融資は大きく「商業ローン（Créditos comerciales）」と「消費ローン（Créditos de consumo）」と「住宅融資（Créditos a la vivienda）」にわけられ、アステカ銀行の場合、その割合はそれぞれ42%、58%、0%である（2017年12月時点、出所：CNBV）。負債・資本構造を見ると、7割弱が要求払い預金（Depósitos de exigibilidad inmediata）で占められている。損益計算書を見ると、費用面では、管理費用（Gastos de administración y promoción）が非常に大きい。ここに融資の審査や預金の獲得の費用が含まれていると考えられる（図2）。

では、アステカ銀行はどのくらいの金利を顧客に課しているのだろうか。ここで簡単な試算により金利の推計をすることができる。具体的には、財務データから「受け取った融資利子収入」を「融資総額」で割ることで「受け取った融資金利」を求めることができ、「支払った預金利子支出」を「預金総額」で割ることで「支払った預金金利」を試算することができる。

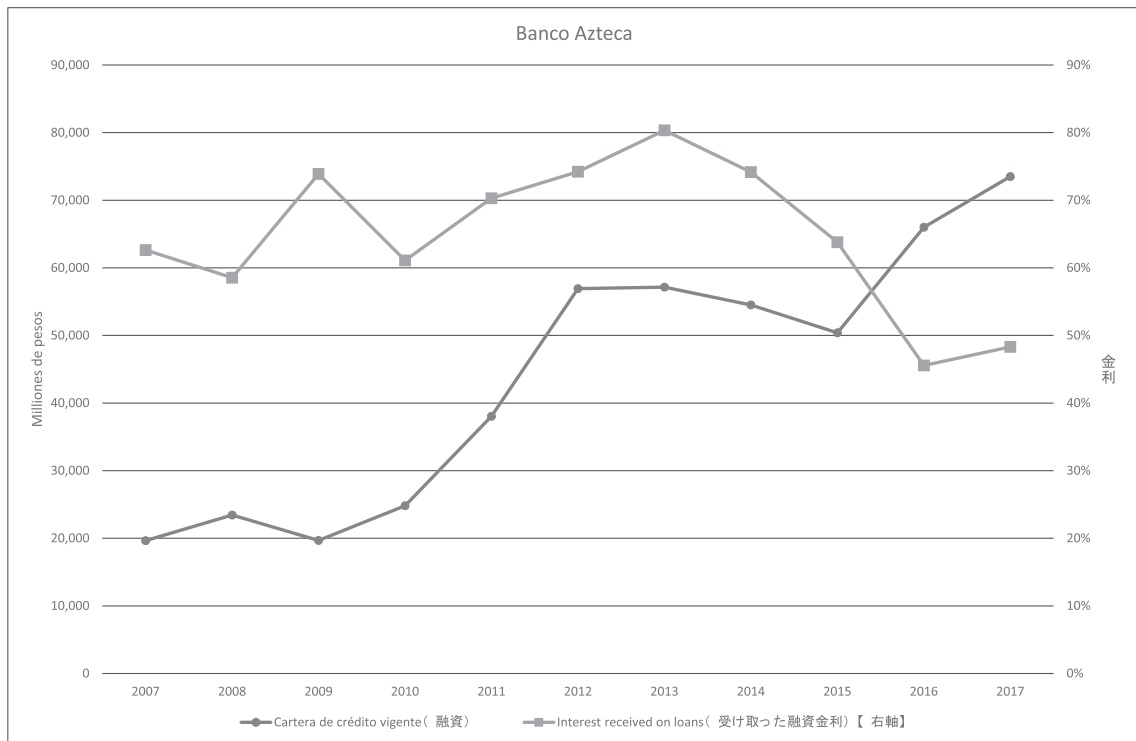
「受け取った融資金利」は2015年までは50%以上になっている。2016年と2017年は50%未満である（図3）。このアステカ銀行の金利の高さはBBVA Bancomerとは異なっており、融資のタ



出所：CNBV

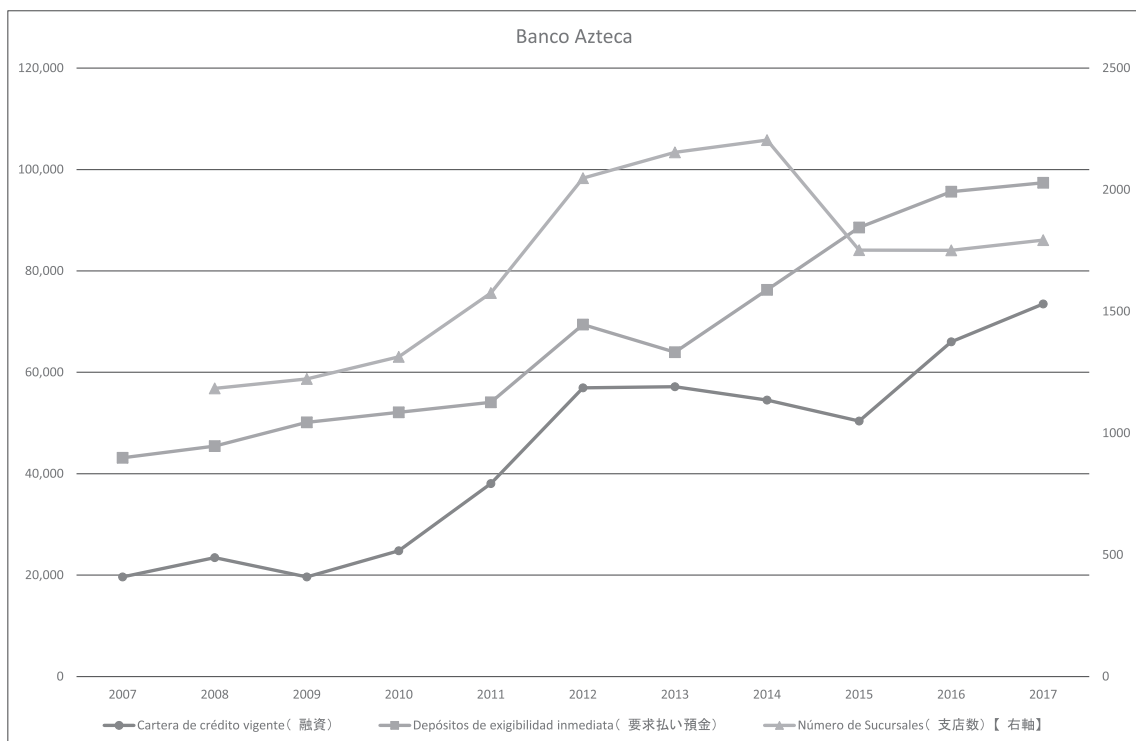
図2 アステカ銀行の損益計算書概略

ーゲット層が異なっていることが想像できる。融資は2009～12年には拡大したが、13～15年には停滞し、16～17年に再び拡大している（図4）。



出所：CNBV データを元に筆者の資産

図3 アステカ銀行の融資金利と預金金利



出所：CNBV

図4 アステカ銀行の融資と預金と支店数

支店数は2014年までは拡大しており、これと共に要求払い預金額は拡大している。支店数は2015年に減少している（図4）。2015年からの変化を説明するのは、2015年におこなわれたというリストラである。報道によれば、不良債権が増加し、2015年において約180支店を閉鎖し、人事の変更をおこなったという（El PAIS, 2016年10月6日“Banco Azteca se pone en forma”）。実際、2016年から融資の金利を平均で50%以下に下げ、支店数は減らした。しかし、興味深いことに融資残高を順調に増やしている。いわば、価格を下げてでも販売量が伸びるように、金利を下げることによって融資が拡大する効果が起きた。そして、この融資の質が改善すれば、利子収入が更に拡大する可能性もある。

3. アステカ銀行の金利決定への第一次接近

国家銀行証券委員会（Comisión Nacional Bancaria y de Valores: CNBV）によって市（municipio）別・銀行別の「個人融資（Personales）」についての金利データが発表されている。消費ローン（Créditos de consumo）は、「個人融資（Personales）」、「給料指定口座を対象とした融資（Nómina）」「耐久消費財購入ローン ABCD（Adquisición de Bienes de Consumo Duradero）」「その他」と別れる。アステカ銀行の場合は「個人融資」が全体の67%で割合が高い（次いでABCDが26%である）。

他方、国家銀行証券委員会は市（municipio）別・銀行別の支店データも発表している。ゆえに、アステカ銀行による個人融資の市別金利データを、①「アステカ銀行の支店が当該市に存在しているか」、そして②「アステカ銀行の支店が当該市の唯一の銀行支店であるか」によって説明できるか検討することができる。仮説としては次の二つが考えられる。まず、別の市に所在する支店から融資管理をおこなうため、融資の管理費用が高くなるので、金利を高く設定することが考えられる。次に、当該市でアステカ銀行が独占的地位に立つことから金利を高くする可能性がある。

金利データは入手できる限り最新（2017年4月）のものを扱い、金利が報告された1792件を利用した。支店データは2017年12月のもの。支店が存在したのは782市、その内にアステカ銀行が唯一の支店である市が172市であった。

$$\text{個人融資金利} = 73.72 - 18.45[\text{支店有ダミー}] + 0.67[\text{唯一ダミー}]$$

$$(514.71)^{***} (-78.97)^{***} (1.69)^{*}$$

注：（ ）内はt値、***は1%で有意、*は10%で有意

以上の第一次接近によりわかったことは二点ある。支店が存在しない市においてアステカ銀行は個人融資をおこなっている場合、高い金利をつけている。当該市でアステカ銀行が唯一の支店である場合には、わずかに金利を上げている可能性がないわけではないが、そうであったとしても小さい幅である。

政策的含意は次の通りである。銀行が出店することによって当該市で金利が低くなり、融資がより行きわたる可能性がある。ただし、アステカ銀行の2015年のリストラを考えると慎重な出店が

予想される。独占効果については引き続き検討する必要があるだろう。

4. 結論

本論文では、この20年間のメキシコ部門における新機軸として、2002年に創設されたアステカ銀行について報告する。本銀行はメキシコ第二位の支店網を持ち、ボトム・オブ・ピラミッド（BOP）層を融資のターゲット層としている。その収益のほとんどが融資からの利子収入であることから、本銀行のパフォーマンスの重要性はどのように貸付金利を定め、適切に回収するかということにある。新聞報道によれば2015年に不良債権についての懸念から支店削減を含む企業リストラをおこなったという。実際、事後の融資利子率を計算すると2015年までは50%を上回る利子率をつけていたが、2016年以降は利子率を50%以下に下げて、融資を拡大していることがわかった。次に、融資と支店網との関係を見るために、国家銀行証券委員会によって報告された各市別のアステカ銀行の融資金利を支店の存在と、その市内にアステカ銀行が唯一の支店を独占的に持っているかで統計的に調査すると、市内に支店が無いと金利が20%弱高いが、市内唯一の支店であってもあまり金利に影響がないことがわかった。BOP層に融資を拡大していくには支店網の拡大が示唆されるが、支店網の拡大による費用増とのトレードオフ関係に配慮していく必要があるだろう。

[注釈]

1) Ratio of private credit by deposit money banks to GDP, 1961–2015

<https://www.cesifo-group.de/ifoHome/facts/DICE/Banking-and-Financial-Markets/Banking/Comparative-Statistics/Ratio-priv-credit-DMB-GDP.html>

[参考文献]

Bruhn and Love (2014) “The Real Impact of Improved Access to Finance: Evidence from Mexico” Volume69, Issue3, June 2014, Pages 1347-1376.

CNBV (Comisión Nacional Bancaria y de Valores), <https://www.gob.mx/cnbv>

El PAIS, “Banco Azteca se pone en forma” 2016年10月6日.

Levy, Santiago, (2018) *Under-Rewarded Efforts: The Elusive Quest for Prosperity in Mexico*, Inter-American Development Bank.

A New Wave in Banking Sector in Mexico: The Case of Banco Azteca

Yoshiaki HISAMATSU

This article focuses on Banco Azteca, a deposit bank in Mexico established in 2002. This bank has No.2 domestic branch network in Mexico, and its main target of customers is Bottom of the Pyramid strata in the Mexican society. As most of its revenue comes from interest revenue on the credit, the bank's performance largely depends on how it sets its credit interest rate and how it collects loans and interests from the borrowers. According to a newspaper article, it made restructuring efforts in 2015 including the closing of its branches, because of its concerns on the non-performing loans. In fact, when we calculate interest rates received on loans, the bank decreased its loan rate to below 50% and expanded its loan assets after 2016. We also check the relationship between its branch network and credit interest rate. Our statistical examination shows two facts. First, when the bank has no branch in a municipality, it charges (about 20%) higher interest rate on borrowers. Second, even in the case that its branch is the only one in a municipality, the loan rate does not change much. The policy implication of this statistical exercise is that the branch expansion could contribute to expansion in financial access, if the bank can control higher administrative cost.

[Key words]

finance, banking sector in developing countries, Mexico, Banco Azteca